

魅力あるまちづくり若者会議（第1回）会議録

日 時 平成26年7月31日（木）午後6時30分

場 所 市民会館42号会議室

参加者 主催者 市長、総務部長、政策情報課長、事務局担当2人

コーディネーター 東京成徳大学経営学部 三枝准教授

会員 9人参加（1人欠席）

取材 信濃毎日新聞、北信ローカル、テレビ北信

1 開会 事務局

- ・机上配布により委嘱書の交付に変える旨説明

2 市長あいさつ

この会は、皆さんが生きるこの中野市をどうするかということ考え、忌憚のない意見を、気楽に出していただいて、まちづくりのコアになってもらいたいというものです。

ここで仲間になってもらい、また、仲間を増やしていくなかで、色々な人の意見を活かしていきたいというのが趣旨です。

これから高齢人口が増えていく中で、そうしたお年寄り人達が暮らしやすい環境を作ることさることながら、私たちも、この地域がどうなったらいいのか、ということを作り上げていくことが重要じゃないかと思う。

「願えば必ずことは成る」という内容の本を書いたナポレオン・ヒルという人がいますが、こうしたい、ああしたいと思わない限りは世の中、変わらない。

制約条件を一切考えずにまずは、皆様の意見を聞きたい。

固くならないで、自由な自己紹介から、親しくなるということが重要。任期は3月31日までですが、その後もあるということでお考えいただいて、組織代表ということでも余力を入れずに、個人的な意見で結構なので自由に述べていただきたい。

*主催側の紹介、コーディネーター紹介

3 コーディネーターあいさつ

簡単な自己紹介と、この会議に参加する私の心構えについて、少しお話をさせていただきます。

私は、今、大学で教員をしているが、実は、池田市長の会社時代の後輩で、銀行の研究所に25年間努めており、地域の計画づくりのような仕事をやっていた。

今、大学ではマーケティングの関係を中心に、学生に教えている。社会とどういう関わり合いを持ちながら、販路を拡大するか、といった新しい時代のマーケティングや、ゼミ

では、関心のある社会的課題をどう解決するかということ、学生と一緒に考えようとしている。

この会議では、運営にかかわりながら、自分だったらこう考えるということも率直に話していきたい。上手くまとめようというよりも、良いモノを生み出すために必要なプロセスとして、一回意見が拡散してもいいというくらいの気持ちでチャレンジしてみようと思っている。

皆さんが中野市について持っている問題意識や悩んでいることなど、どんなものが出てくるかわからないが、一回棚卸してみることからスタートできればと考えている。

なるべく、話の議論を建設的に、前向きに自分たちの意見や力で変えていくということを念頭に置きながら、色々なことを考え、発表していただきたい。

そして、問題は次のアクションにどう移すか。仕事とは別の時間という制約のなかで、実際にアクションを起こして行動していくというのは、巨大なエネルギーがいる。言い放しで、思うような形を作り上げることはできない。やはり誰かが主体的に行動しないと、色々なことは変わらない。頭も知恵も使うけど、ちょっと汗もかくぞという意気込みで、この会に臨んでいただければ、面白いアウトプットになるのではないかと考えている。

4 中野市の現状について

事務局から資料、観光パンフレットにより説明

5 会議の進め方について

配布スケジュール（案）により説明 概ね月に一回程度会議を開催

あくまでも事務局案であり、メンバーの意向により変更も可能とする。

コーディネーター補足説明

今日と次回の様子をみて、どのようなことをやるか、それからどんなやり方をするか、皆様の意見を伺いながらと思っている。できれば、私のゼミの学生を連れてきて、一緒に話を聞かせていただけるような機会も作れれば。

こういう場で色々な意見がでると、職場の人や、知り合いにこの会の話をすると思うが、知り合いの人で、やりたいという人が出てきたら、会に参加できるようにしてはどうか。

ここでやっていることを周りの方々に話をして、意見を聞いて、そういう意見を反映させることができる仕組みがあって、自然に増殖していく会議体ができたら面白い。

※事務局、了承

6 正副会長の互選について（自己紹介を含む）

自己紹介の後、正副会長の互選について事務局から提案したところ、一般的な会議とは

逆に、年下から選出してはどうかとの意見があり、最年少者 蟻川 渉 会長（市職員）
鈴木菜緒美 副会長（会長の指名）と決定した。

7 フリーディスカッション（テーマ決め）

コーディネーター

既に何回か中野に来て感じたことなどを、問題意識としてお話しして口火としたい。

中野は来てみると「いい所」だが、逆に言うと、来てみなければわからない。良いモノはたくさんあるにも関わらず、知名度が低い。情報発信ができていないと第一印象として感じる。全国で人口が少なくなっていく中で、知名度を高めるために色々と仕掛けていくことが求められると思う。

次に、土地柄からか、すごくまじめな方が多いという印象を強く受ける。これはある意味プラスだが、逆にもう少し遊び心のようなものがまちの中にあってもいいのでは。

具体的などころまで落とし込むことは難しいと思うが、世の中の人が楽しめるようなことを中野でも考えて行かないと、人が来てくれないし、知名度も上がらない。遊び心の要素をもっと取り入れたほうがいいのではないか。

三番目として、地域をもっと元気にするためにはと考える場合に、まず地域の資源を再発見しようというところから始まる。何がいいモノなのか具体的に挙げてみる。中の人には、日常的になっているから気づかないとすれば、外の人を入れて、地域をもう一回、自分たちが中心になって見直してみようということをする。

どこまで話を広げるかによるが、世界に売れる中野、くらいまで意識してやってもいいし、もうちょっと堅実に今できることからやりましょうというスタンスであれば、現実的に売れるモノを考えていけばいい。

ステップを踏むためのやり方としては、地域資源の再発見というのは、一度は通らなければいけない道だと思っている。

自分たちが普段考えている、これからの中野はこうしたいという話をしていただければ。

会員

中野市の魅力は、バラがまず浮かぶ。通年で中野市に来てもらえるような魅力がある地域になるといいかなと思うし、別の考えとして、中野市は観光というよりも農業が自慢できると思っている。

子どもたちにバラの名前をひとつでも覚えて貰えるように、今年、バラかるたを作った。次世代を担う子供たちに楽しんでもらえるような活動をしていきたい。

会員

バラまつりは、長年積み重ねてきた結果だが、市内にバラ農家は少ないのが実情。

中野市の農家は、さまざまな品目を作っているし、量も多く県内随一。農業と観光を結ぶことを考えると、農園への道の整備が必要だと思う。

地元の長丘地区は新幹線が走るところが見えるので、いい写真が撮れるポイントになり、鉄道好きな方には、そういうスポットも観光になるのではないかな。

会員

県外の人達と交流があるが、小布施と志賀高原は知っていても、中野市は通過する印象と聞いている。通過点になっているから、観光の目玉を作って留まらせないと。昔、県内の人に、中野市ってどこですかと聞かれたのはショックだった。

会員

外需という意味では、中野は農業が本当に強みだと思う。果物狩りだけではなく、長期的に農業の活かし方を考えてみると、農業の技術を他の人に学んでもらうといったことが考えられる。小布施はまちづくりの成功例として有名なまちであり、飯山はトレッキングのブームで山の活用をしている。その間に挟まれた中野で何ができるかと言ったら、農業の強みを活かして交流人口を増やすようなイベントができればいいのでは。

会員

人がたくさん来ることはもちろんだが、若者が来ないとまちも活気づかない。

学生時代仲間と田植えなどの体験をしたのは楽しかった。中野市にも農業体験できるような施設があればよい。

コーディネーター

農業の収穫だけではなく、生産のところから体験できるような仕組みを取り入れているようなところは市内にあるのか。

会員

農協青年部で子供たちにソバの種まき体験をしているといった例はあるが、数は多くない。

私は30歳まで県外で農業とは関係ない仕事をしていた。どこで暮らしても変わらないと思っていたが、いざ帰ってくると、一番落ち着く場所だと思う。

観光で中野を盛り上げるといっても大切だが、中野に住んでいる人全体が活気づくようなことも必要。それが口コミに繋がっていくのではないかな。

会員

長丘地区の農協青年部で大豆を作って、商工会議所のつながりで味噌に加工して貰って

いる。

キノコ工場見学のような観光ツアーができれば面白い。中野市に来れば、農業を含めいろいろな産業を体験できるような仕組みができれば、ひとつの魅力になるのではないかと思う。

あとは、バラまつりをやるのであれば、シャクヤクまつりもやったらどうか。中野はバラ農家よりシャクヤク農家の方が多い。

コーディネーター

加工品の話は、6次産業みたいな形で農業と製造業をどう組み合わせる地域らしさをPRしていくかということになる。観光という観点だけでなく、今作っているものから、違う名産品、ブランド品を作っていくというのも方法論としてあり得る話だと思う。

例えば三重県にあるもくもくファームは、元々は豚の生産から始まって、ソーセージを作らせる体験や、色々なイベントをやって観光スポットになっている。

そういう展開も、筋道として考えられる気がする。せつかくある資産を色々なものと組み合わせることも大切。

会員

旧豊田村の出身なんですけど、合併して10年経ってもまだ隔たりがあると感じる。中野は音楽のまちとしての共通点、豊田は高野辰之、中野は中山晋平、久石譲がある。音楽は誰もが関われると思うので、広くアピールできる音楽フェスのようなものがないか。

コーディネーター

音楽はこの地域のひとつの特徴、資産である。音楽を活かして、色々な所に関係を付けていくことはよいのでは。今までフェスのようなことはやっているか。

会員

6年前から、青年会議所では「音の郷」というイベントを年に1回やっている。ちょっと有名な人を呼んで、ゼロ歳から楽しめるいい音楽。小さい子が音楽に携わっていけるように。

コーディネーター

否定するつもりはないが、ちょっと真面目な発想に感じる。浅草のカーニバルが名物化していることを考えると、注目度を集めるにはそういうバカ騒ぎのようなものも必要かもしれない。

日本の原風景を謳った「故郷」は大きな資産だが、それはそのままにして、何か別にPRするというのもいいかもしれない。発想を変えて、アピールの仕方を工夫したら、もっと

注目度を上げられる可能性は間違いなくある。

会員

バカ騒ぎという話を聞いて、今、田園という言葉が頭に浮かんだので考えたのが、稲刈りが終わって何も無い田んぼで、田園フェスをやったらどうか。

コーディネーター

具体化するとなると取捨選択は必要になるが、今みたいな会話の中で、連想ゲームのようにアイデアが出てくるのが大切。

会員

富山の事例で、高校生に事業費を渡して、イベントをさせるものがあると聞いた。

コーディネーター

事業を成立させるうえで、ボランティアは大事な要素だが、元手がなければできないし、一般的に言えば、利益を含めて自分たちのメリット、デメリットを考えるのは当然の考え方。ビジネス要素を少し入れた方が、本当の意味での実現性、持続性が出てくる。

こんな感じで、次回、次々回と同じようなことを繰り返していくと、少し方針、キーワードが出てくるのではないかな。

事務局

ありがとうございました。(午後8時15分終了)